

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ xSDG コンソーシアム

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



xSDG コンソーシアム 2023年度 研究プロポーザル

慶應義塾大学 SFC 研究所では、持続可能な社会を実現し、多様で複雑な社会における問題解決を行うため、2017年10月に xSDG・ラボ(エックスエスディージーラボ)、2018年6月に「xSDG コンソーシアム」を設立しました。スタートアップとしての第1期研究期間(2018 - 2020年度)に続き、SDGsの折り返し地点でもある、第2期研究期間(2021-2023年度)の最終年度となる2023年度は、さらに加速度を増して SDGs へ向かう世界をけん引したいと考えています。今まで以上に未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間である企業や自治体といったステークホルダーのみなさまと研究者とのコラボレーションにより、SDGs 目標達成へむけた先進事例や優良事例を作り、これを日本から世界に発信し、スケールアップを実践します。

※ xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間を「Vision Sharing Partner(VSP)」(会員)と呼称します。

SDGs達成へ向けたアクションの優良事例の創出と行動基準づくりを行い、これを通じた知識と実践の基盤を構築する

■活動内容

①コンソーシアム・ミーティングで、アイデアの創発

全体会合となる「コンソーシアム・ミーティング」において、毎回テーマに沿った有識者による専門的知識の提供や、関係省庁関係者による最新の政策動向を基にした議論・意見交換・ワークショップ等の実施を通じて、SDGsのアクションのあり方を検討します。結果に応じて、課題別分科会を創出します。また、SDGsの国際動向や国内実施、指標、政策の動き等に関する情報提供、情報交換を行います

※社会状況に応じて、交流会(レセプション形式)の設定も検討してまいります

②分科会で、アイデアをアクションへ

分科会による個別課題を掘り下げた検討により、従来の境界線を越えた(業界横断の)基準や目標、そしてアクションを官民連携で創出します

- VSP からのご要望・ご提案により、テーマ設定のうえ、設置
- 未来財務情報 xSDG 分科会：企業での非財務情報開示における SDGs の扱い方のガイドラインを検討します(2020年度-)
- 法とSDGs分科会：SDGsの実現に法が果たす役割は何か、法や契約との関係においてSDGsをどのように意識すべきか、について検討を行います(2022年度-)

※ VSP-S (S 会員) および VSP-D (D 会員)、VSP-LG (自治体会員) は、分科会の設置提案と運営、参加が可能。VSP-G (G 会員) および VSP-SME (中小企業会員) は1分科会まで参加が可能

第1期研究期間(2018 - 2020年度)分科会の成果

- 認証分科会(2018年度)：認証制度とSDGsの関係を整理し、どのSDGsターゲットに貢献しているか分析し、学術論文として発表しました
- 金融アセスメントプラットフォーム分科会(2018 - 2019年度)：「企業のためのSDG行動リスト ver.1」(2020年6月)を公開しています
- プラスチック問題分科会(2018 - 2019年度)：活動報告書『SDGsの観点から見た適切な日本のプラスチック利活用の実現に向けて』(2020年6月)をとりまとめ、公開しています
- 新型コロナウィルスとSDGs分科会(2020年度)：「12の方策」(2021年3月)を公開しています

③勉強会を通じた最新情報の提供

2023年度より、SDGsに関連する国内、国際動向に合わせた最新情報をより多く提供できるよう、専門家を招いた「勉強会」を開催いたします。毎回SDGsに関連する個別のテーマをピックアップし、最新情報を学び、その先を議論できる機会を設けたいと考えております。

④企業と地方自治体、関係省庁とNGO/NPOとのコラボレーション創出

コンソーシアム・ミーティングや分科会に、企業と地方自治体、オブザーバーとして関係省庁やNGO/NPOが参加することで、パートナーシップ(目標17)による目標達成を実装します

想定されるパートナーシップ

- 内閣府地方創生推進事務局「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」と連携し、官民マッチング後の課題検討を深掘りし、実態を伴うプロジェクトを創出
- 蟹江憲史が15人の独立科学者の一人に選出されている国連によるSDGsの進捗評価報告書、2023年Global Sustainable Development Reportに成果をインプット

⑤コンソーシアム相談会の開催

アクション創出へ向けたアドバイスの実施をいたします

※ VSP-S (S 会員) および VSP-D (D 会員) が対象

⑥シンポジウム等の開催

※ VSP-S (S 会員) が対象

⑦年次報告会の開催

⑧年次報告書の公表

⑨「SDGs白書」の刊行 ⑩その他の媒体による発信

例：朝日新聞未来メディア2030での発信、など

以上に加え、学生との協働(寄附講座設置(別途お申し込み)、授業との連動など)の機会も検討いたします。

なお、本ラボの活動にご参加いただいた場合、SFC 研究所ヘルス・ランニングデザイン・ラボ(代表：蟹江憲史 <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/rdlab/>)の一部活動にご案内いたします

■成果（予定）

- ・年次報告会の開催（VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）による報告、など）
 - ・年次報告書の発行（メンバー、VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）
 - ・「SDGs 白書」の刊行（メンバー、VSP-S（S 会員）および VSP-D（D 会員）、VSP-LG（自治体会員）を中心に分担執筆）
 - 優良事例を中心に「SDGs のいま」を発信
 - 「SDGs 的出版」を予定（協力：インプレス R&D 社）
 - ・各分科会による成果
 - 分野別 SDGs ガイドライン
 - SDGs 的認証基準
 - 分野別ターゲット など
 - ・国連による「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム（High-level Political Forum on Sustainable Development ; HLPF）における、xSDG・ラボおよび xSDG コンソーシアム主催による公開イベントをニューヨークで開催
 - ・シンポジウム等の開催（VSP-S（S 会員）による）
- ※全研究期間を通じた活動による



■研究期間

第 2 期研究期間：2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

2023 年度研究期間：2023 年 4 月 - 2024 年 3 月

■ 2023 年度活動計画（予定）

- ・コンソーシアム・ミーティング
 - 年 3 回程度開催
- ・年次報告会
 - 年 1 回開催
- ・「年次報告書」発行
- ・コンソーシアム相談会開催
- ・各分科会活動
- ・勉強会
- ・デジタル・プラットフォームの提供
 - 会員メーリングリストへのご参加
 - ニュースレターの配信による電子媒体での情報提供
- ・外部イベント（シンポジウム等）への参加

■対象となる VSP（会員）

- ・慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える企業、組織団体
- ・慶應義塾大学 SFC 研究所との連携により、SDGs の優良事例創出を考える自治体

■ Vision Sharing Partner 制度（会員制度）

xSDG コンソーシアムは、SFC 研究コンソーシアム*として実施される共同研究(年会費制)の一種です。xSDG コンソーシアムでは、未来に向けたビジョンを共有し、協働する仲間として、会員の呼称を「Vision Sharing Partner(VSP)」としています。詳細は、事務局までお問い合わせください。

* <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/consortium/xsdgc/>

これまでの xSDG コンソーシアム Vision Sharing Partner につきましては、下記 URL をご参照ください

https://xsdg.jp/activity.html#xsdg_consortium



■ xSDG・ラボとの共同研究

企業や自治体のみなさまと、個別の課題に応じたテーマードの活動として、共同研究を推進しています。

- 日本版 SDGs の指標検討及び GIS を活用した指標の可視化（国際航業株式会社・ESRI ジャパン株式会社、2018 年度 -）
- 中小企業のための SDGs ガイドラインの作成（第一生命保険株式会社、2022 年度 -）
- SDGs 的視点からみた都市ガスインフラ（導管を中心）の役割・貢献に関わる研究（東京ガス株式会社、2021 年度）
- スマートエネルギーネットワークの構築による SDGs への貢献についての研究（東京ガス株式会社、2020 年度）
- SDGs 達成の進捗管理に関する手法・検討調査（神奈川県、2020 - 2021 年度）
- 「サステナブルな買い物」の実現に向けた商品選定基準の策定（楽天株式会社、2019 - 2020 年度）
- 感じ良い社会の実現に向けた SDGs の戦略的実現モデルの創出（株式会社良品計画、2018 - 2019 年度）
- 金融アセスメントフレームワークツールを使用した実装モデルの構築（株式会社 TREE、2018 - 2019 年度）
- 静岡市政への SDGs 組込に関する共同研究（静岡市、2018 - 2019 年度）
- 地域研究（持続可能な地域づくりに向けた分析と実践）（豊岡市、2018 - 2019 年度）
- 地方自治体政策検証（豊岡市におけるジェンダー課題）（豊岡市、2018 年度）

■ xSDG・ラボとの寄附講座

- SDGs と金融（シティグループ証券株式会社、2020 年度 -）

■ SFC メンバー

代表、統括

蟹江 憲史
（政策・メディア研究科教授）

植原 啓介
（環境情報学部教授）

加藤 文俊
（政策・メディア研究科委員長、環境情報学部教授）

カトラミーズ ターレク
（政策・メディア研究科特任講師）

カン ソンウ
（政策・メディア研究科特任助教）

国谷 裕子
（慶應義塾大学特別招聘教授）

佐久間 信哉
（政策・メディア研究科特任教授）

高木 超
（政策・メディア研究科特任助教）

田中 浩也
（環境情報学部教授）

玉村 雅敏
（総合政策学部教授）

塚原 沙智子
（環境情報学部准教授）

古谷 知之
（総合政策学部教授）

村井 純
（慶應義塾大学教授）

（アドバイザー）

川廷 昌弘
（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン SDGs タスクフォースリーダー）

竹本 和彦
（東京大学未来ビジョン研究センター特任教授、SDSN Japan 事務局長）

平本 督太郎
（金沢工業大学准教授・SDGs 推進センター長）

森平 爽一郎
（慶應義塾大学名誉教授）

関係省庁



お問い合わせ

慶應義塾大学 SFC 研究所 xSDG・ラボ事務局

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

E-mail: xsdg@sfc.keio.ac.jp

URL: <https://xsdg.jp/>

※記載内容は変更が生じる場合もございます（20230330）